法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

新入生履修相談会 : ピアアドバイザーリーダーの意義について : リーダー経験者へのインタビューを通しての考察

SUZUKI, Eriko / 鈴木, えり子

(出版者 / Publisher)
法政大学キャリアデザイン学部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学キャリアデザイン学部紀要 / 法政大学キャリアデザイン学部紀要
(巻 / Volume)
13
(開始ページ / Start Page)
121
(終了ページ / End Page)
142
(発行年 / Year)
2016-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00012783

新入生履修相談会
ピアアドバイザーリーダーの意義について

ーリーダー経験者へのインタビューを通しての考察ー

法政大学キャリアデザイン学部　キャリアアドバイザー　鈴木　えり子

１．問題と目的

キャリアデザイン（CD）学部新入生履修相談会は、学部開設２年目の2004年から現在まで、内容や実施方法に変化を加えながらも続いている重要な学部行事のひとつである[(1)]。当初は学部専属のキャリアアドバイザー（CA）[(2)]が主体となり、２年生以上の学部生が自主的に参加して、履修の組み方のみならず新入生の大学生活全般の相談を受け、アドバイスを行なってきた。2013年からは学部生が企画、運営、実施を行うという、ピアアドバイザー（PA）（４．参照）主体の、学部生による学部生のための履修相談会が行われている。学生自身が新入生のために開催する履修相談会が長年に亘り継続していることは、学部生だけでなく、履修相談会実施の支援を行うCAにとっても、また自己のキャリアデザインを考えるとともに他者を支援することを目的に掲げている[(3)]学部にとっても重要な行事であり、大きな意義を持つものであるといえる。

履修相談会の最大の目的は、新入生が先輩の話を聞き、アドバイスを受けながら最初の履修を組むことができる、またはさまざまな不安や疑問を少しでも解消することである。その目的が達成されていることはアンケート結果（表２・表３）からも明らかである。一方、参加したPAたちは「達成感とやりがいしかない。CD学部でよかった。」「全力でサポートを終えて、達成感を得た。」「思っていたより何百倍も楽しかった。」とのコメントに代表されるように（表７・表８）、やりがい、達成感、楽しさを感じている。その背景を推察すると、他者を支援することを目的に掲げているCD学部で学ぶ学生が、他者をサポー

トするピア・サポート活動[4]に関心が深いことや、履修という学生にとっては最も重要なテーマであり、初めて自分自身で履修を組むことの困難や不安を抱える後輩を支援することが、PAの満足感、達成感につながっていることが考えられる。またピア・サポート活動を行うことが、手助けされる後輩や下級生の支援となるだけでなく、サポーター側の学生自身の人間的成長を促すものである（児美川、2008）ことはすでに明らかにされているところであり、さまざまな研究がなされている（次節参照）。その成長の実感が達成感をもたらしているともいえるであろう。

しかし、PA全員が参加して良かったという感想やコメント（表７）を述べる具体的な理由や背景、履修相談会と他のピア・サポート活動との相違との関係は明確ではない。そこで、本稿では履修相談会において重要な役割を果たすPAリーダー（４．参照）のインタビューにより、PAリーダーがやりがいや達成感をどう捉えているか、PAリーダー経験は現在及び将来にどのように影響するか、また履修支援は他のピア・サポート活動とどのように違うのかを明らかにし、履修相談PAという特定のピア・サポート活動におけるPAリーダーの意義を考察することを目的とする。

２．先行研究におけるピア・サポート活動の意義と参加学生

（１）ピア・サポート活動を行う側の意義と効果

履修相談会におけるPA活動は、ピア・サポートのひとつの形態であるといえる。ピア・サポート活動の意義や効果は、サポートを行う側の成長という視点においてもさまざまな研究を通して確認されている。泉谷・山田（2013）は、まず、名古屋大学での「ペア・相談」において、サポーターの「相談能力・情報提供力の増加」や主体性の高まりなどが示唆される結果が得られている点、また、立命館大学のオリター活動において、積極性、社会性、責任感、コミュニケーション力、問題解決力の全体平均値の就任前と終了後の比較では、88.5%の学生が高くなっていることを紹介している。さらに日本学生支援機構の調査（2010）において、90%以上の機関が「学生の能動的態度やコミュニケーション能力が高まったと思うか」という質問に対して、「強くそう思う」「ある程度そう思う」との回答を示している。これらを踏まえてピア・サポー

トが、学生の積極性やコミュニケーション能力等の向上に寄与すると同時に、キャンパスにおける他の活動や学習への効果、また他学生への波及効果を生んでいる可能性が窺えると述べている。その上で愛媛大学スチューデント・キャンパス・ボランティアへのアンケートとインタビュー調査を行い、ピア・サポート活動を通じて「目的達成のために多様な他者と協働する力」と「他者および集団・組織のために役立とうとする力」等が養われていること、またピア・サポート活動に参加している学生は大学生活全体にも充足感を感じていることを明らかにしている

中里・吉村・津曲（2015）は、熊本県立大学での授業時間内の学生支援活動の効果について次のように述べている。「教える立場に立つ学生スタッフも、受講生から内省を促され、学習の意義を明確に意識できる。また、本研究の調査結果から、学生スタッフは、受講生と関わることで、チーム活動支援を受けており、他者との関わり方を学んでいる」。

（2）ピア・サポート活動に積極的に参加する学生

ピア・サポート活動における効果が明らかになる一方、これらの効果はピア・サポート活動に積極的に参加する学生の従来持つ特性に起因している可能性も考慮しなければならないであろう。学生支援活動に高い参加意識を持っている学生の特徴について、西本（2011）は「（地方国立A大学での調査により）学生による学生支援活動への参加意識の高い学生ほど、他者との交流や活動を通して精神的な充足感を感じることを重視する傾向にあることがうかがえる。」さらに「『精神的充足』や『交流』といった活動そのものに付随する楽しみや喜びを見出せる学生であることが指摘された。」と述べている。

３．履修相談会概要

CD学部履修相談会は、実施方法及び内容を変化させながら継続して実施されてきた。2013年度にPAリーダーが主体となり、企画・運営及びPAの研修を行うという形ができ、2014年2015年度はその方法、内容が継承されている。以下、2014年度・2015年度アンケート結果から抜粋した内容及び2015年度PA研修で実際に使用した資料の一部を記載して、その概要を紹介する。

表１　新入生の参加の動機

質問：履修相談会に参加した理由は何ですか？該当するものにすべて〇をしてください。

履修相談課に参加した理由	2015年度
(1) 市ヶ谷基礎科目・専門科目の履修についてわからないこと、不安なことがあったから	205
(2) 教職科目の履修についてわからないこと、不安なことがあったから	84
(3) 資格科目（図書館司書、司書教諭、学芸員、社会教育主事等）の履修についてわからないこと、不安なことがあったから	10
(4) 大学生活についてわからないこと、不安なことがあったから	68
(5) キャリアデザイン学部の先輩と話がしてみたかったから	65
(6) 友達に誘われたから	11
(7) その他（先輩に合いたかった。履修登録の方法が分からなかった）	2

＊複数回答あり　（単位：人）

表２　参加新入生の感想

2014年度　新入生アンケート			2015年度　新入生アンケート	
項　　目	人数		項　　目	人数
参加して良かった	257		参加して良かった	223
どちらともいえない	0		どちらともいえない	0
その他	0		その他	0

（単位：人）

新入生数	321名	288名

表３　2015年度新入生アンケート結果　「代表的なコメント」

質問：履修相談会に参加した感想、ご意見、ご要望などご自由にご記入ください」

2015年度　新入生アンケート	わからないことがたくさんありましたが、色々解決できました！本当にありがとうございました。
	とても有意義でした。
	一人だときっと履修が組めずに涙していたと思うので、参加してよかったです。
	とても説明が分かりやすかったし、自分にとってすごく役に立ちました。（留学生）
	一人では右も左も分からない状態だったので、今日来て本当によかったです。
	とても楽しく、学部についての理解が深まりました！
	相談にのってくれた先輩方がとても優しかった。そのような点を見習っていきたいと思う。
	少し時間が短くて履修が組み終わらなかったので、もう少し時間が欲しいなと思いました。
	時間割を初めて決めるときにどんどんわからなくなってきて疑問だらけになったけど、今日参加してみて本当によかったです。
	キャリアデザイン学部はやっぱりやることがよくわからない学部だと改めて思います。
	とてもタメになりました。私も来年先輩方のようになりたいです。
	大きな講義室で聞くより全然分かりやすかったです。不安がなくなりました。
	先輩方が明るくてわかりやすすぎました。来てよかったです。

表４　2015年度新入生履修相談会実施プログラム

履修相談会の目的：先輩として教えるのは「方法」

時間割の作成方法、シラバスの読み方など「方法の指導」を相談のメインとする。新入生が自分で履修計画を立て、時間割を作成することが目的となる。履修の手引きや、シラバスの読み方がわからない新入生にはその方法を教える。授業内容に関しては新入生が自分で授業にでて判断するように勧める。（プログラムに記載されている内容を引用）

流れ	所要時間	内容	PAリーダー及びPAの役割
はじめに	５分	企画説明 PA自己紹介	PAリーダーが進行
アイスブレイク	10分	ネームチェーン、新入生に名札を付けてもらう、名前の確認(答え合わせ)、グループ分け	PAリーダーが進行 PA（リーダーも）は一緒に輪に入る
相談１	10分	時間割の基本を確認 新入生からの基礎的な質問に答える	各グループにPAが入る(PAリーダーもPAとしてファシリテーションを行う)
グループ分け	５分	新入生が３領域[5]で特に聞きたい分野のところへ移動する	PA（リーダーも）は自分が専門に学んでいる領域を担当

流れ	所要時間	内容	PAリーダー及びPAの役割
全体で領域説明	５分	PAリーダーより３領域とは何かの説明	PAリーダーが全体に説明
相談２	10分×３	領域別に、基礎より踏み込んだ履修の相談に応じる	PA（リーダーも）が自分の専門領域を担当
@まとめ アンケート	５分	PAリーダーよりまとめの言葉 新入生にはアンケートを配布、記入してもらう	PAリーダーが進行 PAは各グループの様子を見る

＊PAリーダー及びPAの役割は筆者により追加記載

新入生は基礎ゼミ[(6)](A～P）ごとに時間、教室が決められている（表５）。プログラム（表４）は教室ごとに実施される。なお、新入生は自分の時間割をできるところまで作成して持参するように、事前の学部オリエンテーションでチラシやアナウンスによって呼びかける。

表５　2015年度　クラスごと新入生参加人数及び担当PA人数

①　10：00－11：30			②　12：00－13：30			③　15：00－16：30		
組	１年生	PA	組	１年生	PA	組	１年生	PA
A	14	8	F	17	6	L	11	6
B	13	6	G	11	6	M	13	4
C	16	6	H	14	6	N	15	5
D	15	7	I	16	6	O	10	5
E	16	8	J	15	7	P	13	5
			K	14	5			
計	74	35		87	36		62	25

（単位：人）

＊PAは①～③の３回参加する者、１・２回のみの参加する者がいるが、人数にはPAリーダーも含まれる。計は述べ人数。

表６　履修相談会PA参加人数と感想

	2014年度PAアンケート				2015年度PAアンケート			
項　　目	２年生	３年生	４年生	合計	２年生	３年生	４年生	合計
参加して良かった	21	22	2	45	19	20	5	44
どちらともいえない	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
PA総数45					PA総数45			

（単位：人）

注）「どちらともいえない」の理由：初回はPAとして不十分。最初に担当した学生に申し訳なく思う。

表７　PAアンケート結果（代表的なコメント）

質問：履修相談会に参加した感想、ご意見、ご要望などご自由にご記入ください」

2014年度PAアンケート	新入生と色々話すことで、新鮮な気持ちを思い出した
	自分を見つめなおすきっかけになり、よかった。
	また参加したい。
	より専門的な勉強ができてから、来年また参加したい。
	とても楽しかった。よい経験だった。先輩ヅラできた。
	不安がたくさんある一年生のスタートラインがつくれた気がする。
	自分の経験が活かせてよかった。
	２回目。昨年より成長したと実感することができ、自信になった。
	１年生も溶け込みやすい雰囲気が良い。
	自分ももっとがんばろうと思った。
	１年生に楽しかった、ためになったと言ってもらい、うれしかった。
	やって良かった。
	１年生の記憶が思いのほか曖昧。
	非常に充実し、成長できた。
	PA全員が積極的に相談にのっていた。
	１年生も真剣に考えてくれて、やりがいがあった。
2015年度PAアンケート	納得、質問してくれ、新入生の役に立ててる気がした。
	自分の知っている最大限の情報を伝え、全力でサポートを終えて、達成感を得た。
	達成感とやりがいしかない。キャリアデザイン学部で良かったと思った。
	新入生が満足してくれていたと感じることができた。司会としてもっと工夫をしてやりたかった、という思いを持つことができたという点からも参加して良かった。
	準備までは大変であったが、１年生の安心した笑顔を見てとても嬉しく、参加して良かった。

2015年度PAアンケート	１年生と交流できてよかった。楽しかった。
	質問に適切に対応でき、自分がこの学部についてしっかりと理解しているなと実感できた。
	キャリア支援の楽しさを再確認できてよかった。
	自分への新たな理解につながった。
	思ったより皆が履修で悩んでいることを知り、自分がアドバイスできることが多かった。
	自分が思っていたより何百倍も楽しかったです。
	改めて自分の履修についても見直すことができた。
	自分もちゃんと履修について分かっていないと感じた。
	緊張していた１年生同士が帰りには友達になっていく様子を見ると参加して良かったと思う。
	２年から参加しているが、３年生になった今だからこそ話せることが増えたように思えた。
	人に教えることが意外と難しいことなど色々学べる良い機会となった。

＊表７、表８ PAアンケート結果にはPAリーダーも含む

表８　PAアンケート結果　自由記載まとめ

PAの感想	2015	2014
役にたてた	14	8
自分自身の発見、成長、気づき、反省	13	11
楽しかった（支援の楽しさも含む）	11	12
感謝された	10	10
やりがい、有意義	6	2
達成感、～できた	5	11
初心に戻った	5	7
恩返しができた	2	0

（単位：人）

＊PAアンケートの自由記述（表７に一部記載）から、筆者が共通する言葉を抜粋し、まとめたもの（複数回答あり）

図１　2015年度 PA募集チラシ

＊PAリーダー作成

４．PAリーダーとPAの役割

PAリーダーは履修相談会当日にはPAの役割を担うため、PAとPAリーダーの役割や意識を明確に区別することは難しいが、各役割を以下３点について整理する。

①履修相談会

履修相談会当日は、各教室にPAが４～６名、PAリーダーが１～２名入り新入生15名程度を担当する（表５）。PAリーダーは各教室でプログラム進行にあたり司会を行い全体の流れを見ながらPAをフォローする（表４、PA及びリーダーの役割参照）。PAはPAリーダーの進行に従いながら新入生に積極的に声をかけ、担当グループの新入生の質問に答えたり、アドバイスを行ったりしながら、相談１では、新入生が最終的に時間割を組むことができるようにサポートする。相談２では自分の担当する領域（３領域に別れる）のグループで、相談１ではできなかった専門領域についての疑問や質問に答える。グループに分かれた際、PAリーダーは担当グループに入りPAとしての役割も果たす。

②事前研修

PAがそれぞれの力を十分に発揮できるように事前研修（2015年度は３月30日と４月３日の２回実施。PAはどちらかに参加することが条件）を行う。事前研修では、履修相談会の目的や心構え、履修についての変更点や疑問点の確認、当日の流れを共有する。PA研修の準備、資料作成、リハーサル実施はPAリーダーが行う。この事前研修の重要な目的のひとつはPA同士が信頼関係を持ち、楽しみながら新入生に接することができるように準備を行うことである。PAリーダーたちはPAの不安を和らげることを目標のひとつとしている。

③PAリーダーの苦労

10月末には次年度の履修相談会にむけての第１回ミーティングが行われている。このミーティング開催を自主的によびかけたメンバーはPAリーダーの中核となり（各年度２～３名）、リーダーとして一緒に運営に携わってくれるPA（10名程度）を探す。PAリーダーの数は2014年度10名、2015年度８名となった。PAリーダーは、授業はもとより、サークル、部活、アルバイト、オープンキャンパススタッフなどの課外活動などと並行しながら、履修相談会までに約10回程度のPAリーダーミーティングを行う。履修相談会のプログラム（表

４)、実施方法、PAの必要人数[7]について検討し、事前研修や履修相談会開催の準備を行う。これら10回にわたるミーティング実施、さまざまなスケジュール調整、企画及び実施には多くの困難を伴うことは想像に難くない。しかしここで最も大きな課題となるのは、PAの人数確保である。日程の都合のつくPAを探すことは期間的（春休み）にも難しく、PAリーダーたちは友人たちに声をかけたり、さらにチラシ（図１）を作成して授業内外で配布したりなど、履修相談会プログラム実施に必要なPAの人数を確保することに苦労する。

５．2015年度PAリーダーへのインタビュー調査

（１）調査概要

①目的：やりがいや達成感をPAリーダー自身が具体的にどう捉えているか、それは新入生への履修相談という支援が関係しているのか、さらに履修相談会PA及びPAリーダー経験は現在及び将来にどのように影響すると考えるか（行動、大学生活、学び、キャリア、仕事）を明らかにすることを目的とする。

②調査対象者：2014年度、2015年度PAリーダー経験者でピア・サポート活動を行っているサークル（SIGNAL, AITOC[8]）に属している２、３、４年生５名（学生A・B・C・D・Eと表記するが、学年と対応はしてはいない）に依頼。了承を得られた学生に対してインタビューを実施した。

③時期：2015年11月、12月

④調査方法：インタビューは１人に対して90分程度実施した。インタビューの前に質問の概要を説明し、筆者１名で聞き取りを行なった。質問は⑵を踏まえ、半構造的に行った。インタビュー内容は筆記により記録し、インタビュー対象者に確認を行った。

（２）インタビューにおける質問

①履修相談会で最も強く感じた思いとはどのようなことか（満足、成長できた、やりがいを感じた、他者を支援したいなど)。

②他者支援はキャリアデザイン学部の目的のひとつであるが、履修相談会と他

の他者支援に違いを感じるか、または他活動との違いはどのような点か。

③PA及びPAリーダーを行うにあたり、CD学部での学びや経験は何らかの形で活かされているか。

④PA及びPAリーダー経験は現在及び将来にどのように影響すると考えるか（行動、大学生活、学び、キャリア、仕事）。

（3）インタビュー結果

インタビュー調査において学生から語られた内容をまとめた。

①先輩について

学生A：新入生のときやPA１年目のとき、先輩を見て来年こういうことができる人になりたいと思ったことに（今年）近づけたような気がする。

学生B：先輩たちの企画、運営、スケジュール管理、進め方を見て、自分は劣っていると感じた。劣っていることを補うためにどうしたらいいんだろうと考えた。

学生C：自分たちで考え、実行し、自分たちが気づかない点をアドバイスしてくれる先輩を見て、こんなにすごい先輩っているんだ、私もこういう先輩になりたいと思った。

学生D：先輩を見て、なんでこんなことができるんだろう。こんな先輩になりたいと思う。新入生にとっても後輩PAにとっても、先輩にかかわれることは大きい。

学生E：リーダーという経験がない中、PAリーダーのリーダーを一人でやらなければいけないことは、大変であった。そんなとき先輩の助けはありがたかった。すごい、と思った。困っていることに意見を言ってくれるなど、気持ちの支えになってくれていると感じた。

②PA同士について

学生A：PAリーダーは意識が高く、自分たちで作り上げようと思っている人たちが集まってくる。

学生C：仲間（PAリーダー同士）の出会いは大学生活を通して本当に大きな

ものとなった。また先輩だけでなく後輩や同期にも意欲の高い人がいる。みんなが高めあう、成長したいという気持ちがあるように感じる。人と人とのつながり、互いに刺激をもらう場である。

学生D：PA同士の関係が広がり、仲間意識が生まれる。また、刺激を受ける。

学生E：後輩たちに助けられた。みんなが一生懸命にやってくれた。

③自分の成長や学びにつながっていると考えられること

学生A：純粋にこんなことを学びたいと思っている新入生と話をすると、自分の新入生のころを思い出す。今のうちに卒業に必要な科目を履修しようと思うようになっていたが、本当にこれをやりたいんだろうか、CD学部に入った理由があったんだと改めて考えた。履修科目を考直すきっかけとなった。

学生B：先輩を見て自分の劣っている点を補うために、どうしたらいいんだろうと考えた。経験を積めば得られると思った。授業や自主活動で苦手意識のあったリーダーを積極的に経験した。

学生C：積極的に話すこと、自分の思いをだすことに抵抗がなくなった。それはゼミでの活動に現れた。その場所が好きなら頑張れる、よくしたいと思う自分に気づいた。

学生D：履修相談会を続けていって欲しいという思いが大きい。後輩に伝えたい。そして、PA同士がもっとつながればみんなにとってもっといい機会になると思う。熱意や、新入生だけのためではないという思いを伝えたい。新入生にとっても、PAにとっても、学部ももっとよくなるようにできたらいい、そんなことを感じ、行動してきた。

学生E：自分の望む成長にはつながらなかった。苦しい状況の中、メンタルが落ち込み苦しかった。しかし、それを乗り越えたという自信にはなった。また、自分の強みは全てを見まわしながら、目配りや管理することだということも再確認できた。

④履修相談会（履修に関する支援）の特徴と他のピア・サポート活動の相違点

学生A：自分の経験を話せる、活かせるというのは大きい。履修相談会には

「履修を組む」というまずは分かりやすい目的がある。時間割というたった一枚の紙から会話が生まれる。

学生B：実施する側と教える側の距離を最も近く感じることのできる企画である。成果が目に見えて分かりやすい。新入生の不安をとりのぞけた、スタートの手助けになっているという気持ちになる。手ごたえが見えやすい。自分の経験が話せる。自分のやってきたことを正直に話すことが役に立つ。

学生C：実施する方の思いは色々あるとしても、（他の活動は）こちらがやりたいことをやっている、一方的な活動のような気がすることがある。履修相談会は相手も目的がはっきりしている。時間割を作るという、何をするかが明確。はっきりした目的のために集まった人たちに対して自分の経験、思いを話せる。先輩として役に立っていると感じる。

学生D：履修相談会では正しい情報や自分の知識を伝えるということが求められる。間違ってはいけない部分がある。緊張するし資料作成などの準備やPA研修は気を遣う。だからこそ新入生が履修をちゃんと組むことができたという結果が返ってくる。表情や明るさが最初と最後では全然違う。他の支援活動ではそれほど明らかには感じられない。

学生E：履修を組むというというきっかけがもとで、話が盛り上がる。高校生などは引き出してあげる、という感じがする。大学生はどんどん聞いてくる。

⑤CD学部の行事であることの意識

学生A：履修のしくみは複雑。だから新入生のニーズは大きい。この学部にはそのニーズに応えられる、支援したいと思っている人たちがたくさんいる。そして、学部事務のひとたちやCAと一緒につくりあげていくことができる。

学生C：CD学部は他者支援に興味がある人が多い。学部でやる意味、安心感、一体感がある。

学生D：履修相談会は学部の行事である。新入生にとっても、PAにとっても、学部がもっとよくなっていくようにできたらいい。

学生E：学部の行事にかかわれている、役に立てている、というううれしさ、満足感がある。

⑥相談スキルやマインドの重要性の理解

学生A：自分が新入生のとき、大学生がこんなに新入生にかかわってくれるんだー、自分たちもこんなに話せるんだー、と思った。他学部にはないと思った。来年は私もPAをやろうと思った。実際にPAになって、例えば自分だったら絶対履修しない「芸術」を時間割に入れている新入生がいた。「なぜ？」「絵が好き」から話が始まり、話がふくらむ。1年生も話してくれる。話を聞きだす、聴く、ということは大切であり楽しい。

学生D：ファシリテーター（PA）がちゃんと聴いてあげる。新入生の話や不安をちゃんと聴いてあげなければ、あんな風に明るい表情にはならないと思う。新入生はPAが一生懸命話を聞いてくれた。先輩は分かってくれた。ぎこちなくても向き合ってくれると感じる。そのPAの姿勢は、学部の目標やキャリアサポート体験、キャリアカウンセリングなどの授業[9]で学ぶ、傾聴や受容がつくっていると思う。本当に相手が望んでいることは何か？を知ることは大切。また、他者を支援したいという熱い想いは大切であるが、そこに必要な土台や知識が必要であると思う。

6．まとめと考察

新入生履修相談会でのピア・サポートにおけるやりがいや達成感をPAリーダー自身が具体的にどう捉えているか、それは新入生への履修相談支援とどのように関係しているのか、さらに履修相談会PA及びPAリーダー経験は現在及び将来にどのように影響するかを明らかにするために、インタビューの中で共通して語られた内容を整理し、その要因や背景を考察する。

（1） 5．(3) ①②から先輩PAや仲間から受ける影響や刺激は大きく、特に先輩PAリーダーの存在は全員の「先輩のようになりたい」という言葉からも、

成長のきっかけとなっていることが明らかになった。中里・吉村・津曲,（2015）が述べている、「学生スタッフリーダーが活動中のロールモデルとして機能していたと考えられる」を支持することになった。

またPAリーダーはその活動内容やインタビューから、「ピア・サポート活動への参加意識が高い」学生の特徴と考えられる「大学生活において活発」「主体的に授業に取り組む」「他者との交流や成長を重視する」（西本, 2011）学生であると考えられる。具体的には、自分たちが新入生や後輩PAリーダー時に先輩から受けた刺激や学びをもとに行動を起こしていることがうかがえる（5.（3）③参照）。このようなPAリーダーたちの行動や考え方は、後輩PAたちの「自分自身の発見、成長、気づき、反省」（表８）に影響を与えているといえるのではないだろうか。これらの連鎖が起こっていることは、インタビュー対象者５人が具体的な先輩たちの名前とともに先輩からの学びや影響について熱心に語っていたことからも筆者も確認できた。そして４人が現在なんらかのかたちで先輩に近づけたと感じると語っている。つまり履修相談会におけるPAリーダーは自分自身のPDCAを実行するとともに、履修相談会でのピア・サポーターの核として、PAリーダー、PA、新入生が互いに影響をあたえあう関係を創っていると考えられる。

泉谷・山田（2013）はピア・サポートを通じて「目的達成のために多様な他者と協働する力」と「他者および集団・組織のために役立とうとする力」が養われると述べている。筆者の当研究ではPAリーダー経験を通してこれらの力が養われたことの検証は行われていないが、５.（3）⑤から自分が学部の行事にかかわっている、集団・組織に役に立っている、一緒につくりあげているという気持ちが満足感ややりがいにつながっているといえるのではないかと考える。またインタビュー対象者は、学部の学生だけでなくさまざまな人とかかわることができることの楽しさや学部を良くしたいという思いを持っていることがうかがえる。

（2） 5.（3）④を整理すると、履修相談会の特徴として、以下のことが見えてくる。

①履修を組むという、支援される側にもする側にも明確な目的がある。

②自分の経験を語る、経験を活かすことができる。

③成果、手ごたえが見えやすい。結果がかえってくる（役に立っているという実感、相手の変化）。

④支援する側とされる側の距離が近い（大学生同士）

履修相談の特徴ともいえるこれらの点は、アンケート結果（表８）の「役に立てた、楽しかった、感謝された、やりがい・有意義」という感想をもたらす要因となっていると考えられる。

（3） 5.（3）⑥からPAリーダーは､PAが単に「教える」「指示する」ではなく、話を聴くことの大切さを意識していることがうかがえる。

大石・林・稲永（2010）は、「学生が学生の相談を受けるという責任やリスクを伴うことや、話を聴くためのスキルを身につける必要性から、専門家の指導が欠かせない」と述べている。また履修相談の機能と役割について服部（2014）は次のように述べている。「履修相談においては、学生が『…を教えて欲しい』『…について確認をしたい』と語ることが多く、支援者が『教える』『指示する』『指導する』といった対応をとってしまうことがある。しかし、支援者は学生の主体的な学びを促すために、『何がわからないのか』『どの程度理解しているのか』というアセスメントを行うことが求められているのである。」「言うまでもなく、支援者が持つキャリアカウンセリングなど専門的な知識と支援スキルが、学生の意識と行動の変化を促しているのである」。ここで述べられている専門的な知識とスキルと比肩することはできないとしても、履修相談会でいえば、「学生」は新入生であり、「支援者」はPAである。こうしたPAの新入生に対する、話を聴こうとする態度や他者をサポートする意味の理解やスキルは、CD学部のプログラム[(9)]を通じて形成することが目標とされている。その成果はまだ十分とはいえないとしても、PAの姿勢に影響を与えているだけでなく、先輩やPA同士の学びや気づきとして共有されていると考えられる。そしてそれは新入生の気づきや態度の変容を促し（表３）、その変容を感じたPAはやりがいや達成感を得る結果（表８）に結びついているといえるのではないだろうか。さらに学生Dは、「他者支援は自己満足に陥りがちになる。本当に相手が望んでいることは何かを知ることは大切。」と語っている。また、

「先輩の自己満足だけでは次にはつながらない。だから次年度、新２年生のPAが沢山集まるとうれしい」といった学生Cのことばは、自己満足が優先された支援では継続できないことを意識していることがうかがえる。

７．今後の課題

以上、PAリーダーの意識や経験を通してPAリーダーの意義を考察してきたが、本研究の調査対象はPAリーダー経験者５名と少数であるため、結果にあたえる影響は考慮しなければならない点である。今後はさらに多くのインタビューを行うとともに、PAリーダー自身がその役割と意義についてどのように考えているかを調査していきたと考える。

また、PAリーダーやPAとして活動する学生は先述の通り「大学生活において活発」「主体的に授業に取り組む」「他者との交流や成長を重視する」などの特徴を持つと考えられるが、ピア・サポート活動に参加できない、またはしない学生が、履修相談会に参加することが自らの成長のきっかけとなりえる可能性について、今後の調査・研究の課題としたいと考える。６.（2）で述べたように履修相談会はピア・サポートとして比較的参加しやすい活動であるといえる。授業や大学生活に積極的に参加できていない学生が、PAとして履修相談会に参加し、自らの経験を語り新入生に感謝される、または先輩や仲間PAから刺激や学びを得る機会を持つ、仲間や知り合いが増えることで、新な気づきや行動のきっかけとなりえるのではないだろうか。また学生にとって自らの学びの方向性や将来の働き方を意識して履修を組むことは非常に重要である点を考慮すると、入学時点で履修や科目の組み立てのしくみや要点をおさえておくことは、大学生活でさまざまなことを経験し時間を有効に使うためにも必要であると考えられる。そのスタート時点で先輩であるピア・サポーター（PA）からアドバイスや経験談を聞くことは、その後の進路や学習に悩む学生の減少にもつながるのではないかと考える。

これらの点を明らかにし、本研究で示唆した履修相談会におけるPAリーダーの持つ力とCD学部での学びや他者支援についての意識、それらの後輩への影響を踏まえて履修相談会のさらなる充実をはかるとともに、履修相談というピア・サポートのあり方の意義と成果を明らかにしていきたいと考える。

［謝辞］

本研究の調査を実施するにあたり、調査にご協力してくださった学生のみなさまに、心より御礼申し上げます。また、本稿のご指導を賜りました宮城まり子先生、服部典子さんにあらためて深く感謝申し上げます。

［注］

(1) 太田千秋（2008）「法政大学キャリアデザイン学部における新入生履修相談会とピアアドバイザー活動」法政大学キャリアデザイン学会『生涯学習とキャリアデザイン　144』参照

(2) キャリアアドバイザーは、学生生活を支えるキャリアデザイン学部専属のアドバイザーとして、学生の種々の相談に応じるなど多面的に学生の成長、発達を援助する役割を担っている。キャリアアドバイザー制度の概要および業務内容は、服部典子（2012）法政大学キャリアデザイン学部紀要第９号に詳しい。

(3) 法政大学キャリアデザイン学部が教育の目的とするのは、(1)自己の学び方、働き方、生き方を自らデザインすることのできる自律的人材の養成であり、同時に、(2)他者の学び方、働き方、生き方のデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材の育成である。法政大学ホームページ、「キャリアデザイン学部の理念・目的」、http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/index.html（アクセス日：2016/1/8）

(4) 西山久子・山本力（2002）「実践的ピアサポートおよび仲間支援活動の背景と動向」『岡山大学教育実践センター紀要　第２巻』、山田剛史（2010）「ピア・サポートによって拓かれる大学教育の新たな可能性」『大学と学生87』日本学生支援機構 参照

(5) キャリアデザイン学部の３つの領域とは、「発達・教育領域」心理学と教育学の学問値をベースにして、子どもや青年、成人の心理や発達、学校教育や生涯学習機関の現状や課題を学ぶ。「ビジネスキャリア領域」経営学や組織科学、労働経済学、産業社会学などの学門知をふまえて、企業やビジネスの現場や業務内容、そこで働く人の育成などを学ぶ。「ライフキャリア領域」家族やコミュニティの社会学、それに文化関連の諸学を土台にして、家族や都市という生活の場、アートやミュージア

ム、さらには多文化でグローバルな社会について学ぶ。高野良一（2014）「学部カリキュラムの考え方と全体像」『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版 '98

(6) 基礎ゼミは、キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることを目的とした授業。学部の専任教員が担当し、１クラス20人弱で、新入生は春学期を通して同じクラスで履修する。

(7) PAリーダーはプログラム実施の方法や内容、スケジュールの概要を話し合った後、PA必要人数を決定する。2014年度、2015年度は基礎ゼミ単位（16クラス）で、５～６クラス同時に３回実施（表５）とした。この計画に基づき各クラスにPAが６名以上入る必要があるとして、45～50名を募集することを目標とした（PA全員が３回参加できない可能性があるため）。

(8)「SIGNAL」高大連携プロジェクトチームとして、提携校生にワークショップを提供し、一緒に実践することを通して高校生の考え方、活動がひろがるための支援を行っている。「AITOC」中高生のキャリアを支援する（自分が何をしたいかを知る）　活動を行っている。

(9) CD学部プログラムには次のような科目がある。

「キャリアサポート事前指導・実習」。キャリアデザイン学部では、みずからのキャリアをデザインできる人材を育てることを目的とするとともに、他者のキャリアデザインを支援することを通して、自己の将来にむけたキャリア意識やキャリア形成を考えることを可能とするプログラムを行っている。「キャリアサポート事前指導」、実施内容は①アクティブ・リスニング（積極的傾聴のスキル）②アサーション・スキル（自己の考えを相手に率直に伝えるスキル）③ファシリテーション・スキル④プレゼンテーション・スキル⑤サポート活動の事例やロールプレイ、「キャリアサポート実習」、実施内容は、高大連携プログラムのもと、大学生が高校生の将来に対するキャリアデザインをサポートするための具体的活動。宮城まり子（2014）「４支援を通した学び　キャリアサポート実習」『キャリアデザイン学への招待　研究と教育実践』ナカニシヤ出版, 140

「キャリアカウンセリングⅠ」（到達目標：キャリアカウンセリングとは

何かを理解し、その歴史、理論的背景、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件、キャリアカウンセリングへのニーズとその活用などに対する深い理解)、「キャリアカウンセリングⅡ」(到達目標：キャリアカウンセリングを実際に行なうためのカウンセリングのスキル、アプローチ方法に関する深い理解と具体的な事例を通したキャリアカウンセリングの実際的な理解を習得すること)「キャリアデザイン学部シラバス2015年度」などがあり、多くの学部生が履修している。

[参考文献]

児美川孝一郎（2008)「サービス・ラーニングとしてのキャリア・サポート活動の可能性－キャリアデザイン学部「キャリア相談実習」の中間総括に向けて－」『法政大学キャリアデザイン学部紀要，５』，54

泉谷道子・山田剛史（2013)「体系的なピア・サポート活動による学生の学びと成長」『大学教育実践ジャーナル』第11号，66-67

中里陽子・吉村裕子・津曲隆（2015)「授業時間内の学生支援活動による学生の成長メカニズムに関する予備的研究」『アドミニストレーション』第21巻第２号，104

西本佳代（2011)「学生による学生支援活動に参加するのは誰か」高等教育研究叢書『学生による学生支援活動の現状と課題』, 48, 53

大石由起子・林典子・稲永努（2010)「大学における新入生支援としてのピアサポート活動－立ち上げの２年間をめぐる考察－」『山口県立大学学術情報』第３号，30

服部典子（2014)「学生支援における履修相談の機能と役割－法政大学キャリアデザイン学部における履修相談の特徴とプロセスの検討を通して－」『法政大学キャリアデザイン学部紀要，11』，174-175

渡邊大介・吉永一行（2012)「学生による学部教育活性化のための活動（その１）学生履修アドバイザー」京都産業大学教育支援開発センター『高等教育フォーラム　Vol.2』

野勢祐樹・井上由香里・阿部美咲・光宗榮・高木美和・吉田博（2012)「学生による履修相談の取り組みの成果と課題―行列のできる履修相談じょ及び抽選漏れのための履修相談じょの実施からー」『大学教育カンファレンスin徳島2012』口頭発表B⑥
http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/pdf/42-43.pdf(アクセス日：2016／1／8)

嘉納英明（2011）「教職履修生の学習支援ボランティアにおける学びと自己成長」『日本生活体験学習学会誌　11』

日本学生支援機構（2007）「大学における学生相談体制の充実方策について－「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」－」

お茶の水女子大学学生支援室ピアサポート・プログラム連絡会議（2014）「ピアサポート・プログラム報告書第５号」

三重大学学生総合支援センター（2011）報告書「SA（スチューデント・アシスタント）活動報告

ABSTRACT

The Purposes of the Peer Advisor Leader in Freshmen's Academic Consultations of Career Design Faculty
– Consideration from the interviews with those who have been peer Advisor Leaders –

Eriko SUZUKI

The activity of the 'peer advisors' (PA) in academic consultations is one form of the 'peer supports'. In preceding researches, characteristics and personal growth of the ones who provided peer supports were observed. The purpose of this article was to consider the purposes of the PA leader from the interviews with PA leaders in the academic consultations of the Career Design Faculty of Hosei University.

As a result, the followings were revealed. In experiences of being PA leaders, the inspirations and influences they received from superior PA leaders and colleagues were considerable and they made them grow as persons. In the academic consultations, both the supporters and supported have clear purposes, and the reactions of each other are recognizable, which is not the case in other peer supports. Moreover, PA leaders are aware of the importance of the awareness of career counseling and skills for it such as listening ability. Such as this, it was revealed that PA leaders were, as nucleus in the academic consultations, creating relationships that PA leaders, PAs and freshmen were influencing one another.